

試験研究成果普及情報

部門	漁場環境・生産基盤	対象	普及
課題名：アサリ減耗防止手法の確立			
〔要約〕強波浪や鳥類等によるアサリの冬季減耗への対策として、簡便な被覆網の設置、管理、撤去技術を開発する。また、被覆網を設置する適地を選定することで、アサリの保護管理を可能とする。			
フリーワード [※] アサリ，冬季減耗，被覆網			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター東京湾漁業研究所	
	実施期間	2010年度～2012年度	

〔目的及び背景〕

近年、三番瀬ではアサリの資源減少が著しいが、その原因としては、①長期的な稚貝発生量の減少、②冬季の資源減耗、③青潮による大量死亡、④江戸川放水路からの出水による大量死亡、が考えられている。これら4項目のうち「②冬季の資源減耗」については、波浪によるアサリの洗掘および鳥類(カモ)による捕食が要因として取り上げられており、唯一、人為的対応策を講じることが可能と考えられている。

そこで、アサリの洗掘および鳥類による捕食からアサリを保護する手法を確立するため、漁業者が実践できる手法で、被覆網によるアサリ保護管理技術を確立する。

〔成果内容〕

- 1 コンポーズパイプ、ステンレスリング、ロープを使用して船上から沈子ロープを四方に取り付けた被覆網を海底面上に設置することが可能となった。
- 2 生物に無害な付着物防止剤の効果により、網に付着する藻類の大幅な軽減が図られ、11月設置から翌年3月までの期間、網交換する必要はなく、問題となっている網維持管理の作業軽減が可能となった。
- 3 2011年度の被覆網適地選定試験（図1）の結果、11月の保護開始から翌年3月までのアサリ残留率が約70%と高残留率で保護育成することができる場所が判明した（図2）。
- 4 2012年度の被覆網実証試験（2012年年11月～）では、被覆網設置区の生残率は2013年2月時点で50%（対照区は10%以下）であり、保護効果が確認された。

〔留意事項〕

- 1 波浪条件の厳しい場所で本方式による保護は難しい。
- 2 付着防止剤の効果は干出しない場所のみ効果がある。

〔普及対象地域〕

千葉北部漁場（三番瀬漁場）

[行政上の措置]

普及のための支援

[普及状況]

2012年度は漁業者が被覆網区画の設置（コンポーズパイプ設置）を行った。

[成果の概要]

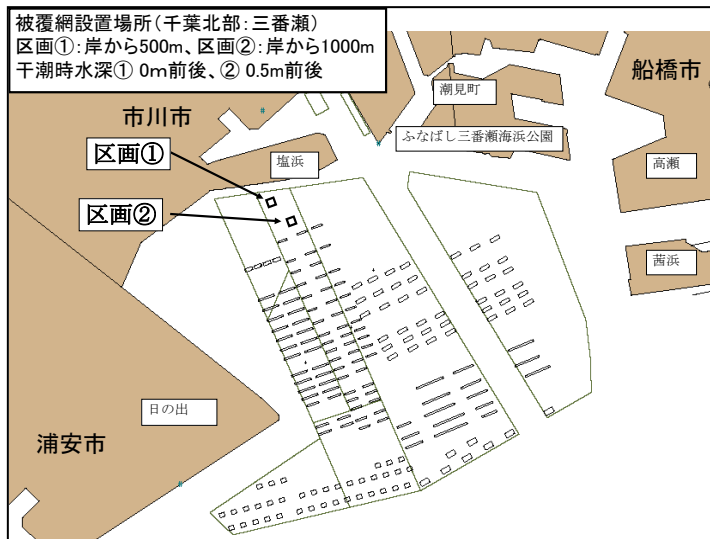


図1 2011年度被覆網適地選定試験場所

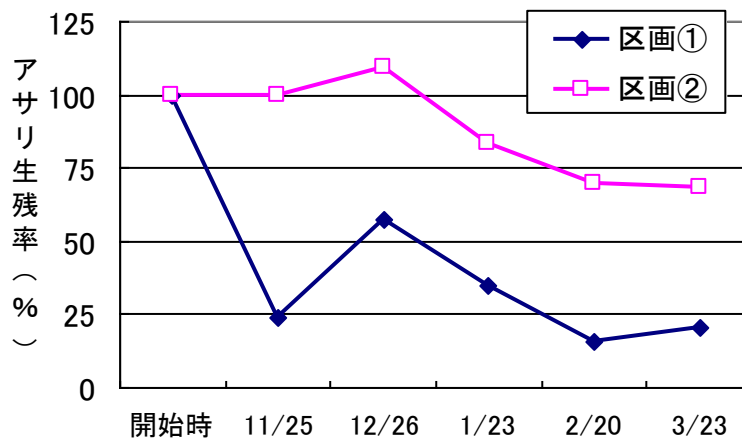


図2 2011年度 被覆網適地選定試験結果（アサリ生残率推移）

[発表及び関連文献]

- 1 三番瀬漁場再生事業、千葉県水産総合研究センター業務年報、平成22年度
- 2 アサリ減耗防止手法の開発、千葉県水産総合研究センター業務年報、平成23年度

[その他]